

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月12日(木)

《自分から相手を赦しましょう - 神様に赦されているのだから - 》

アメリカ先住民のインディアンが熊を捕まえる方法を聞いたことがありますか。彼らは、小さい岩くらいの大きさの石に蜜を塗って、綱で木の枝にぶら下げておきます。すると蜜の匂いをかぎつけた熊がやって来て、前肢でその石をとろうと引っ張ります。しかし綱がついているので、石は綱に引き戻され、振り子のように戻って来て、熊に当たります。熊は、石が自分を攻撃したと思って怒り、もっと強く石を叩き返そうとします。すると石は、更に強い勢いで戻って来て、熊を叩きます。それが何回も繰り返され、結局熊は石に倒されるのだそうです。その後、インディアン達は、易々と熊を捕まえる、という話が伝わっています。

これは、本当の話かどうか分からないのですが、言い伝えられているのだから、そのようにしていたのではないかと思います。

さあ、では熊の立場になってみたらどうでしょうか。食べようと思って石に手を伸ばしたのに、その石は自分の手から逃げて、戻って来ると逆に自分を攻撃します。腹が立ちます。相手が自分を攻撃したから、反撃しようと思い、石を叩くのでしょうか。しかし、石の攻撃は更にひどくなります。結局、自分が攻めれば攻めるほど、もっと強く自分が攻められることになります。

人類の歴史を見ると、攻められたと思ったら、『復讐』を考えます。皆様にも仕返しをしようと思った経験があると思います。しかし、復讐することは人間の一番大きい愚かさの一つです。復讐は悪循環のもとなのです。これは国と国との関係だけでなく、普通の人間と人間との関わりの中でもよくあることです。考えてみてください。「私も間違えたけれど、相手のやり方は少しひど過ぎるのではないか。このままでは我慢できない。」と思って仕返しをしますよね。でも、仕返しをすればするほど、もっと強く返って来るのです。そして、このような関わりによって、相手と敵の関係になってしまうのが人間の愚かな生き方ではないでしょうか。こういう面が皆様にあるかどうかは、ご自分だけがご存知でしょう。ただ、全ての人間にはこういう心があると思います。

では、逆に『和解』という言葉がありますね。和解のために必要な条件は何でしょうか。たとえば、殴った人と殴られた人がいたとします。和解するために、この二人には何が必要でしょうか。それは、どちらかが手を伸ばすことです。では、どちらが手を伸ばすべきでしょうか。殴った人が手を伸ばしても意味はありません。力のある方が「和解しましょう。」と言っても、意味はないのです。本当に和解するためには、殴られた方が、「もういいよ。赦してあげるよ。」と言って手を伸ばさなければならぬのです。しかし人類の歴史を見たら、いつも力を持っている人が言い訳のように、「和解しましょう。」と言って和解をし、歴史が流れてきました。皆様、本当の和解になるためには、攻められた人が広い心で「これ以上の悪循環は避けなければいけない。」という思いを持って、手を伸ばさなければな

りません。それが真の和解であり、赦し合いだと思います。しかし、それがなかなかできないのです。

皆様、ご自分が憎んでいる相手と自分との関係をよく考えてみてください。たぶん、100パーセント相手の間違えだけではないでしょう。ご自分にも責任があるのではないのでしょうか。

さあ、今日の福音(マタイ 18:21-19:1)について、同じ箇所を読んだ時に、皆様に説明したことがあるのですが覚えているでしょうか。1万タラントンは、今のお金でいくらになると話したか覚えていますか。計算してみますと、3,000億円から4,000億円くらいの大きい金額になります。つまり、普通の人では、どうやっても返せない金額です。ですから主君は、「自分(家来自身)も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように。」と命令します。しかしこの人は、「待ってほしい」と願います。そこで主君はその人を赦し、その人は借金を帳消しにしてもらって、外に出ます。外に出ると、100デナリオンを貸していた仲間に出会います。するとその人は仲間の首を絞めながら「借金を返せ」と言います。

100デナリオンはいくらでしょうか。10,000タラントンの60万分の1の金額です。仮に10,000タラントンの3,000億円だったとしましょう。私は、聖堂に入る前にちょっと計算をしてみたのですが、100デナリオンは、50万円くらいになります。これは、結構現実的な金額です。50万円ならば、私達も誰かから借りる可能性が十分にあります。そしてその50万円くらいで、人を牢に入れたり、動物のように扱ったりすることが、この世の中ではあきれくらいたくさん起こっています。

今日の福音では、3,000億円の借金を赦された人が、50万円を借りていた仲間を赦せない話になっています。常識で考えたら、あり得ないことだと思われるでしょう。しかし、落ちついて考えてみますと、私や皆様も、3,000億円の借金を赦されたのに50万円の借金を赦せない人と同じことをしているのかもしれない。

皆様、赦せない時には、まず神様を思い出してください。今まで神様にどのくらい赦していただいて生きてきたかを考えてみてください。そうしたら、“こんなちっぽけなことも赦せないなんて話にならない”とすぐに思えます。何でもないことに憎しみを持って、「相手が交通事故にでもあってしまえばよいのに。」などと考えてしまうことがあるかもしれません。それは特別にひどいことではありません。誰にでも十分にあり得る人間の弱さです。「あの人を見たくないのに、毎日見えるところにいる。どうすればよいのだろう。」と考えることも、普段いつでもあり得ることです。

皆様、3,000億円という金額は、想像できないような金額です。今日の福音は、「そのように想像できないようなことさえ赦されていることを意識しなければならない。」そして、「自分は赦されているのに、もっとずっと小さなことで人を責めたり裁いたりしている。それはおかしいことではないか。」というイエス様のみ言葉だと思います。

もう一回振り返ってみましょう。「私が赦さなければ、天にいる御父も私を赦してくださらない。」という言葉の重み、深みについて、意識しなければならないと思います。

皆様、自分が一番正しいと思わないでください。自分でも気付かないうちに自分を指さす人はたく

さんいます。もちろん、本当に自分が正しいのに、「お前は正しくない」と言って指さす人もいます。そういうことを考えてみると、私達はどのような立場であっても、自分から手を伸ばして相手を救い、癒さなければならないのでしょうか。そうしなければ、終わりのない悪循環になることを今日の福音でもう一回黙想してみましよう。

ありがとうございました。